

連載 講座

地域防災実戦ノウハウ(37)

—実践的な防災訓練を目指して

(その14)—

Blog 防災・危機管理トレーニング

主宰 日野宗門

1. はじめに

7月31日～8月1日に、東京都内で首長を対象とした消防庁主催の危機管理セミナーが開催されました。このセミナーには、全国から多数の首長等が参加しました。2日目の8月1日には危機管理演習(図上訓練)が実施され、筆者が図上訓練の進行管理者(コーディネーター)を担当しました。その図上訓練は、前号で紹介しました「首長を対象としたアピール性のある状況創出型訓練」をベースにし、参加人数や会場の広さなども考慮してアレンジされたものです。

なお、最近、本講座でお示した「状況創出型図上訓練」を採用されるところが徐々に増えてきています。提唱者としては嬉しい限りです。ただし、状況創出型といわずに状況予測型と呼称されています。今回のセミナーでもこの呼称を用いました。そこで、本講座においても、これ以降、状況創出型図上訓練を状況予測型図上訓練と呼ぶことにします。

さて、セミナーにおける図上訓練は次のような流れで実施しました。流れそのものは、本講座でこれまでご紹介してきた状況予測型図上訓練と変わるところがありません。しかし、今回は、状況付与に関し以下のような工夫を行いました。

①付与する状況(想定)を増やした

②付与する状況(想定)のねらい、ポイントを明確にした

以下では、これらについてご紹介します。

1. 訓練説明 (10:00～10:30)

2. 図上訓練 (対応記入票への記入) (10:30～11:30)

3. 昼食・休憩 (11:30～13:00)

4. 図上訓練 (評価・検証) (13:00～15:30)

発生後 3 時間～6 時間」の状況等の予測と対応等について訓練参加者に回答していただきました。

【想定】 地震発生直後

12月17日（水曜日）の午前 5 時10分頃、地震が発生しました。
体感、周囲の状況からすると、震度 6 強程度と思われます。
あなたは、在宅中である。
天気は晴れ。北西の風 3～5メートル。

【想定】 地震発生 1 時間後

1 時間後、あなたは災害対策本部の指揮をとっている。
災害対策本部には、1 割程度（市町村の場合。都道府県の場合は 5 %程度）
の職員が参集してきている。
参集職員、関係機関職員等から断片的な情報が入ってきている。
その報告によれば、複数の火災が発生し延焼中、また、多数の家屋が倒壊し、
死傷者もかなりの数にのぼっている。停電は広範囲にわたっている模様であ
り、水道も断水状態が続いている。その他のライフラインにも相当な被害が出
ている模様。
（県下の多数の市町村で同様の被害が発生している模様。）
余震は、なお続いている。

【想定】 地震発生 3 時間後

隣接県からの応援（職員、部隊）が到着しつつある。
ボランティア団体から応援の申し入れが入り始めている。
多数の住民が学校や公民館等に避難してきている。避難者の中には、病人、
高齢者、乳児等がいる。
住民から、家族・知人の安否、行政の対応状況等に関する問い合わせが殺到
している。

3. 付与する状況(想定)のねらい、ポイントを明確にした

本講座では、図上訓練では評価・検証が特に重要であることを強調してきました。

「評価・検証」においては、訓練参加者は自分が回答した状況等の予測、そのときの自分の対応が、「ポイントを押さえたものかどうか」、「大切なことを忘れていないか」をもっとも知りたいはずです。

ですから、訓練企画者は、付与する状況(想定)について、それはどのようなねらいのもとに作成され、それに基づく状況等の予測や対応等におけるポイントはどのようなことであるかをあらかじめ整理し、明確にしておくことが大切です。そのことにより、要点を押さえた評価・検証が可能となります。

今回の図上訓練では、進行管理者からそれぞれの想定ごとに、以下に例示するねらいとポイントを解説し、訓練参加者の参考に供しました。

〈地震発生直後の想定に込められたねらいとポイント(例)〉

- 震度6強がどの程度のものかイメージできるか
- 本人・家族の安全(自宅の安全性)を確保できるか。そのことを思いつくことができるか
- 冬季の地震の特殊性を考慮することができるか
- 情報の極端な不足をどのような方法で補おうとしているか
- 意思決定に空白を生じない体制になっているか
- 地震発生が早朝であることが被害や防災活動にどのような影響をもたらすかをイメージできるか
- 電話の通話障害の発生を考慮に入れているか
- 安否問い合わせ電話の殺到とそれへの対応が考慮されているか
- 住民等に対する広報・活動喚起が適切に行われているか

〈地震発生1時間後の想定に込められたねらいとポイント(例)〉

- リーダーとして優先的に意思決定すべきことは何かが考えられているか
- 参集幹部はこの時期少数であることを前提に対策が考えられているか
- 少数の参集職員で行うべきことは何かが考えられているか
- 効果的な職員動員の方法・手段が考えられているか
- 要救助者の早期発見、救出体制は実践的であるか
- 避難所の開設、運営に係る留意点を理解しているか
- 広域応援(要請)の必要性を理解しているか。また、そのための法制度、運用方法を理解しているか
- 余震による災害の拡大等をイメージできるか

〈地震発生3時間後の想定に込められたねらいとポイント(例)〉

- 応援(職員、舞台)の受援計画、ボランティアの受け入れ計画が具体的に定められているか
- 避難所の災害弱者への対処方法を理解しているか
- 市町村等に殺到する安否問合せ電話への適切な対処方法を理解しているか
- 報道機関対応の効果的な方法が考えられているか
- 困難な状況を打開するための自助、共助、公助の重要性をトップ自らがテレビ、ラジオなどで訴えることが考えられているか
- 自治体が行っている応急措置、救援措置に関する適切な情報提供が考えられているか